

ジニア（百日草・ヒャクニチソウ）



■ ジニアのプロフィール

学名：Zinia

科名：キク科

分類：一年草

原産地：メキシコ

初夏～晩秋にかけての長い期間花を咲かせ続けるところから「百日草（ヒャクニチソウ）」とも呼ばれます。春に種をまいて夏から秋に花を楽しむ『春まき一年草』として扱います。属名のジニアはドイツの植物学者、ヨハン・ゴットフリート・ツィン(J. G. Zinn)の名前にちなみます。和名のヒャクニチソウは長い期間花を咲かせるので、この名前があります。江

戸末に入ってきたときは「長久草」とも呼ばれていたそうです。多くの園芸品種や系統があり、花の大きさで巨大輪種(径 12cm 以上)、大輪種(10cm 前後)、中輪種(7cm 前後)、小輪種(5cm 以下)に分けられます。また、花の形による系統として、「ダリア咲き」「カクタス咲き」「ポンポン咲き」などがあります。

また最近では、リネアリス(アンスグティフォリア)や園芸品種のプロフェュージョンなど、昔からあるジニアとは異なった種類が広く出回っており、花色、品種が大変豊富になっています。

■ ジニアの育て方

● タネまきについて

ジニアのタネは、花のタネとしては大きい方で、とてもまきやすいです。4～6月がまき時ですが、20℃くらいでよく発芽するので、4月中旬以降であれば、タネをまくことができます。

タネは大きいので、ポットに2～3粒の点まき、もしくは育苗箱や底穴をあけたイチゴパック等にスジまきし、5mm 程度土をかけ、乾かさないう管理しましょう。発芽するまでは7日前後です。タネは4月中旬～8月上旬までまくことができるので、数回に分けてまいて、花を長く楽しむこともできます。



● タネまき後の育て方

発芽してきたらよく日に当て、水やりはやや控えめにします。本葉が4枚ほどになったら育苗ポットに1本ずつ植え替えます。

育苗時期の乾燥、肥料不足は、生育が劣り病気も発生しやすくなります。乾いたら十分に水をやり、定期的に肥料を与えます。株上げ後、十分に活着した状態で株の勢いがよい頃（本葉が7～8枚くらい）に、先端を摘み取ると分枝数が増し、ガッチリした株になります。わき芽の真上を摘んでください。

● 育て方のポイント

日当たりと風通しのよい所を好みます。土質はさほど選びませんが、低温地、乾燥地は避けてください。ジニアは開花・生育期間が長いので、肥料不足になると花つき、生育が劣り、病気も発生しやすくなりますので、定期的に肥料を与えましょう。

